

学 校 名	山形市立蔵王第三小学校 山形市立蔵王第二中学校 山形市蔵王温泉字丈二田727番地 TEL 694-9042 FAX 694-9373	校 長	吉野 利明
		研究主任	橋本 博行（小） 武田 睦子（中）
研 究 主 題	「自ら生きる 共に生きる 豊かに生きる子どもの育成」（6年次＜最終＞） ～ 交流を通して高め合う授業作りを目指して ～		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	1. 学校教育目標から 本校では、学校教育目標、 (1) 厳しさに立ち向かい肥えゆく樹水のような子ども (2) 英知をもって咲き続けるこまくさのような子ども (3) 内から温かさが溢れ出る蔵王温泉のような子ども を踏まえ、故郷・蔵王温泉を愛するとともに、国際的な視野で未来を創造する児童・生徒を育成していくために、互いに関わり合いながら、生きる力を育む教育を目指している。 また、研究主題「自ら生きる 共に生きる 豊かに生きる子ども」を次のように捉えている。 ・ 自ら生きる（自律）・・・「心」「知識」「体」がバランスのとれた状態にあって、主体的に判断し、よりよい生き方を選択しようとする意欲や最後までやり遂げる力を持つこと。 ・ 共に生きる（共生）・・・一人ひとりが自分の考えを出し合い、他者の考えを尊重しながら練り上げ、互いに自己を高めていくこと。 ・ 豊かに生きる（感性）・・・美しいものを美しく、素晴らしいものを素晴らしいと感じ、より高い価値を求めて行動したり、自分の思いを素直に表現したりすること。 このように、本校では、お互いが積極的に関わり合い、よりよい生き方を求め、高まっていくことができる子どもの育成をを目指している。 2. 主題設定の理由 本校は、小規模校である。従って、大規模校より、一人ひとりに目を向け、個を大切にしたい授業を行うことができる。しかし、以下のような小規模校であるがゆえの課題や本校独自の課題も抱えている。 (1) 児童・生徒の中から、なかなか多様な考えが出てこない。 (2) 話し合いや討論を通しての集団の高まりや思考の広がりが不足している。 (3) 表現力（発表力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力等）の個人差が大きい。 今年度は、このような児童・生徒の実態を踏まえ、具体的な手だてを計画的に進めていくことで、「生きる力」を確実に育てていく。		
研 究 の 目 標	児童・生徒が自信を持って自分の考えを発表し、交流し合うことを通じて高め合うことができるようにする。		

研究の仮説	(1) 様々な交流形態を意図的に授業に取り入れ、数多く話し合いや討論を経験させることで、個々の表現力が向上するとともに、集団としても高まっていくであろう。 (2) 学習の中に、児童・生徒が互いに認め合う活動を取り入れることによって、児童・生徒の表現への意欲が向上し、積極的に表現する中で多様な考えが生まれ、思考も広がるであろう。 (3) 異学年間で学習の成果を発表し合ったり、朝会や集会、朝の会や帰りの会などの中でより多くの発表を経験することで、児童・生徒はより豊かな表現力を身につけていくであろう。																												
研究の内容と方法	(1) 様々な話し合い形態 様々な話し合いの形態を授業に積極的に取り入れ、話し合いや討論を数多く経験させていく。 <table><tr><td>低学年</td><td>中学年</td><td>高学年</td><td>中学生</td></tr><tr><td colspan="4">＜対話、ペア・小集団での話し合い＞</td></tr><tr><td colspan="2">スピーチ</td><td colspan="2">討 論</td></tr><tr><td>インタビュー</td><td>ポスターセッション</td><td colspan="2">パネルディスカッション等</td></tr><tr><td>クイズ形式</td><td colspan="3">ディベート</td></tr></table> (2) 相互評価 個の高まりと共に、互いに高め合っていく集団を目指し、各教科において自分の発表や考えに対して「自己評価」する場と「相互評価」する場を計画的に設定する。また、効果的な「自己評価」「相互評価」の在り方を探っていく。 (3) 授業研究会 計画的な授業研究会を通して、互いの授業を見合い、意見交換を行うことで、研究を深めていく。 ・ 1人1授業提供（時期は小中部会で検討） ・ 小中大研1回ずつ（小中合同事後研）6／18（水）・11／26（水） (4) 日常活動の中で ① 朝会・集会等での計画的な表現（発信）活動及び活発な感想交流 ② 朝の会・帰りの会等での表現活動（1分間スピーチ等） ③ 全校合唱や全校朗読、学習成果の発表など ④ 児童会・生徒会を中心とした「あいさつ運動」			低学年	中学年	高学年	中学生	＜対話、ペア・小集団での話し合い＞				スピーチ		討 論		インタビュー	ポスターセッション	パネルディスカッション等		クイズ形式	ディベート								
低学年	中学年	高学年	中学生																										
＜対話、ペア・小集団での話し合い＞																													
スピーチ		討 論																											
インタビュー	ポスターセッション	パネルディスカッション等																											
クイズ形式	ディベート																												
研究の計画	<table><tr><td>4月</td><td>研究主任・副主任会 推進委員会（30日）</td><td rowspan="11">↑ 授業 研 究 ↓</td></tr><tr><td>5月</td><td>校内研究会「研究全体計画の決定」（14日）</td></tr><tr><td>6月</td><td>附属小公開研参加（12・13日） 小学校大研（18日）</td></tr><tr><td>7月</td><td>推進委員会（25日） 校内研究会（31日）</td></tr><tr><td>8月</td><td></td></tr><tr><td>9月</td><td></td></tr><tr><td>10月</td><td></td></tr><tr><td>11月</td><td>中学校大研（26日）</td></tr><tr><td>12月</td><td>推進委員会（10日） 校内研究会「研究紀要について」（22日）</td></tr><tr><td>1月</td><td></td></tr><tr><td>2月</td><td>実践記録のまとめと研究の反省、研究紀要作成 推進委員会（20日） 校内研究会「次年度の校内研究について」（27日）</td></tr><tr><td>3月</td><td>研究紀要完成・送付</td><td></td></tr></table>			4月	研究主任・副主任会 推進委員会（30日）	↑ 授業 研 究 ↓	5月	校内研究会「研究全体計画の決定」（14日）	6月	附属小公開研参加（12・13日） 小学校大研（18日）	7月	推進委員会（25日） 校内研究会（31日）	8月		9月		10月		11月	中学校大研（26日）	12月	推進委員会（10日） 校内研究会「研究紀要について」（22日）	1月		2月	実践記録のまとめと研究の反省、研究紀要作成 推進委員会（20日） 校内研究会「次年度の校内研究について」（27日）	3月	研究紀要完成・送付	
4月	研究主任・副主任会 推進委員会（30日）	↑ 授業 研 究 ↓																											
5月	校内研究会「研究全体計画の決定」（14日）																												
6月	附属小公開研参加（12・13日） 小学校大研（18日）																												
7月	推進委員会（25日） 校内研究会（31日）																												
8月																													
9月																													
10月																													
11月	中学校大研（26日）																												
12月	推進委員会（10日） 校内研究会「研究紀要について」（22日）																												
1月																													
2月	実践記録のまとめと研究の反省、研究紀要作成 推進委員会（20日） 校内研究会「次年度の校内研究について」（27日）																												
3月	研究紀要完成・送付																												